



村はひとつ 学校はひとつ 願いはひとつ みんなで気づく（築く）さわやか天栄

2018.8.24

教育委員会だより No.85



魅力いっぱい 「愛村心（自尊心）」を育む天栄村！

発行：天栄村教育委員会

「学校運営協議会」開催

1学期中に、広戸小学校、湯本小学校、天栄中学校の3校で、「学校運営協議会」を開催しました。

委員の皆様には、「主体的、対話的で深い学び」をどのように具現しようとしているか、教師の子ども達への関わりや子どもの学ぶ姿を実際の授業を通して参観していただきました。

また、教育活動を展開していく上で課題となる点について、子ども達の学びと成長を支えるための最善策を出すべく、様々な視点から話し合われました。

3校の訪問を終え、学校運営協議委員の方々からは、「各学校のもつ教育課題はそれぞれ違うが、村民として各学校の課題を知ることが重要である。解決していくために努めたい」、「各学校を訪問して、地域の力を学校教育に生かすことが重要であることを認識した。地域が学校を支えていく体制づくりを推進していくことによって、地域の教育力の高まりにもつながっていくことが分かった」などの声が聞かれました。



サマースクールてんえい

7月23日・24日に、「サマースクールてんえい」が行われ、村内全ての小学校6年生が天栄中学校に集合し、一緒に学習したり、部活動の体験をしたりしました。学習では、小学校の先生だけではなく、中学校の先生による授業を受けたり、ミニ先生として中学生が教えてくれたりするなど、短い期間ではありましたが、中学校生活の一部を味わいました。

さすが素直な天栄っ子。他校の子ども達とすぐに仲良くなり、学習場面では、自分の気付きや考えを伝え合ったり、互いに教え合ったりする姿が見られました。

また、すてきな制服を身にまとった中学生は一段と大人に見えたのかもしれない。勉強を分かりやすく教えてくれる中学生への憧れをもち、尊敬の眼差しで先輩を見つめる6年生の姿もありました。さらに、中学校生徒会代表から中学校生活の様子についてプレゼンがあった際には、6年生から中学校生活に対する質問がたくさん出され、中学生になることへの自覚の高まりが感じられました。

この2日間の貴重な体験は、きっと来年の4月から中学生生活に生かされることでしょう。ご協力いただきました先生方、ありがとうございました。



「主体的・対話的で 深い学び」を自問する③

前号まで「主体的な学び」、「対話的な学び」を掲載しましたが、今回がラストです。「深い学び」に関する授業改善の視点（自問例）を掲載します。日々の授業を見つめ直す参考にしてください。

- ① 教材研究を重視しているか。
⇒ 教材研究を方法論のみと捉えてはいませんか。深く学んでいる具体的な子どもの姿を洗い出しておくことで、教材研究の質が変わってきますね。
- ② 各教科等の目標を具現する学びとして捉えているか。
⇒ 学習指導要領では、すでに3つの柱に沿って目標が整理されています。教師用指導書と一緒に、学習指導要領にも目を通してみましよう。
- ③ 子どもが本当に豊かな結論を求めているか。
⇒ 教師が教えるだけではどうしていけないのかを、教師自身が納得し、理解していないと授業の質的改善が見込めませんね。

まずは、得意な教科をさらに磨いてみましょう。他教科の指導にも好影響があるはずですよ！

自己の授業をよりよく変革しようとする「覚悟」が、今求められています！



生涯学習事業

村民一人一人が自己の能力を高め、生きがいを持って豊かで充実した人生を送れるよう、誰もがいつでも自由に学習機会を選択していけるよう、必要な学習環境を整え、村民の主体的な学習活動を支援出来るよう取り組んでいます。

○青少年育成村民会議総会

6月22日（金）に生涯学習センター多目的ホールにおいて、平成30年度天栄村青少年育成村民会議総会が開催されました。この会議は子ども達が安心して生活が出来る環境づくりを行うためのもので、学校だけでなく、駐在員や交通安全協会など地域の方々の協力を得て運営しています。

今年度は登下校時の声掛け運動や危険個所への看板設置、救急救命講習会など、子ども達の安全のため、地域一体となって実施してまいります。



○歴史学び教室

6月20日（水）、21日（木）、26日（火）の三日間、村内の史跡を巡る歴史学び教室が開催されました。

村内の史跡や名勝を学校ごとに見学し、天栄村文化財保護審議委員の方々に説明をしていただきました。ふるさとの歴史を知る貴重な時間となりました。



○つなぐ英語教育推進事業（セカクル）

7月7日（土）に天栄中学校において、つなぐ英語教育推進事業「通称：セカクル」が開催されました。今年で3年目となる事業で、早稲田大学国際教養学部にも所属する学生サークル「セカクル」が来村し、中学生と交流を図りました。様々なゲームや村の良さを発見するディスカッションなど、生徒は終始、英語を使って実施していました。セカクルのメンバーには日本語がうまく話せない方もいましたが、一生懸命、日本語で説明する姿を見て、チャレンジする大切さ、一歩踏み出す大切さを学んでいました。

